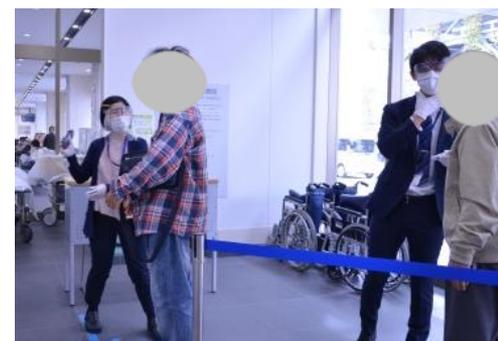


新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けての当院の取組み



未曾有の事態である新型コロナウイルス感染症に対応するため、当院では2020年2月に正面玄関前に発熱問診用テント（現在はコンテナ）を設置し、翌3月には院内に『新型コロナウイルス感染症対策本部』を立ち上げました。本部では院内感染対策室のメンバーが中心となって、患者や職員のみならず、取引業者等病院に出入りするすべての人に対する感染対策を徹底するよう様々な活動を開始しました。

4月7日に緊急事態宣言が発令され、急増する新型コロナ患者によるクラスターの発生を可及的に防止するため、地域の先生方のご協力の下、WEB予約を停止したり、急を要しない手術を延期したりするなど、4月から2か月間一部の診療を制限させていただきました。その結果、当院の本来の役割である救急や手術、重症患者の対応を止めることなく行うことができました。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けての当院の取り組み

5月下旬に緊急事態宣言が解除された後も、コロナ患者の対応に並行して、当院の本来の役割である高度専門医療を続けていくために、全職員が一丸となって感染防止に努めました。例えば、院内に勤務するすべての人の健康管理を徹底して行い、対策本部で作成した各種マニュアルを日々アップデートし続け、マニュアルに沿った感染予防策を実践することで、発熱患者やコロナ疑いの患者を受け入れていき、地域の先生方に安心して患者を紹介していただける体制の整備に全力を尽くしてきました。



夏にはコロナの第2波がやってまいりましたが、第1波の経験を活かし、診療制限など行うことなく診療を継続することができました。並行して寒くなるにつれて訪れるであろう第3波に対する備えも強化いたしました。各種コロナ検査機器、空気感染隔離ユニットや紫外線消毒装置を導入し、第3駐車場に新たにコンテナを設置することで、通常疾病の患者とコロナ疑いのある患者を完全に分離した診療ができる動線にしました。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けての当院の取り組み

予測通り、寒くなるにつれて変異株が発生するなど、首都圏のみならず関西圏でもコロナ患者が漸増していきました。当院でも感染疑いを含め、より多くのコロナ患者に対応できるように、2020年12月には第3駐車場に設置していた帰国者・接触者外来の1階建てのコンテナを2階建ての新たな建物に変えました。新施設には従来にはなかった待合室やトイレを設置し、車いすの患者にも対応できるようバリアフリー対応の建物にしました。

また、県下の逼迫した病床を少しでも緩和するために、コロナ患者受け入れ病床も随時最大限に増床しました。

帰国者・接触者外来
(C外来)



我々が今後も心掛けていくこと～地域の医療・介護従事者の皆様へのメッセージ～

来院する患者の三密を回避するため、2020年8月からは、きらりホールの一部を使って入院支援窓口を移し、そこで入院前問診をしています。同時に、手術で入院される患者全員のコロナ検査(LAMP法)の実施をスタートし、現在では、手術の有無にかかわらず、入院される全ての患者にコロナ検査を受けていただき、院内でクラスターが発生しないよう細心の注意を払っています。

このように当院では患者が安心して受診できるように、すなわち、地域の先生方に安心して患者を紹介していただけるよう、万全の体制を整えております。また、次年度もウィズコロナを見据え、オンライン(Web)形式での情報発信も強化していきたいと思っております。

今後も当院は地域の住民・先生方から「頼られる病院」であるよう努めてまいりますので、何卒宜しくご支援・ご協力のほど、お願い申し上げます。

例年5月に実施させていただいております開業医の先生方と直接交流させていただける数少ない機会である「地域連携会議」は、残念ながら中止せざるを得ませんでした。

(対面式での会議は開催できませんでしたが、11月にZOOM(Web)を使った「地域連携セミナー」を実施させていただき、地域の医療・介護従事者の皆様方へ当院の状況を報告させていただきました。)

現時点で、次年度も同様の形式で、地域の医療・介護従事者の皆様との連携強化のために企画しております。





ノーマスク
ノートーク
サンキュー



院内には「コロナ職員応援チーム」が2020年3月に発足し、職員の感染対策行動を確認、職員間での啓蒙を行ってきました。心臓血管外科の圓尾先生デザインのコロナちゃんステッカーを職員通路のドアノブ付近、エレベーター、PCに貼り付けています。

院内では供給が不足しているPPE（個人防護具）特にアイソレーションガウン、フェイスシールドの在庫が逼迫していた期間、代わりとなる防護具を、ゴミ袋、クリアファイル等での製作を院内職員全体で担っています。小児科病棟では、入院中の子どもたちの気持ちが少しでも和らぐよう、キャラクター付きのフェイスシールドを自作しています。

